

《 今日の主なニュース 》

～ 日経ニュースなどを中心に抜粋 ～

◆26年度実質成長率が1.3%→0.9%に下振れ 政府見通し、原油高を反映

・内閣府は2026年度の国内総生産(GDP)の実質成長率が0.9%になるとの見通しを公表。中東情勢の悪化による原油高の影響を反映し、25年末時点の見通しから0.4ポイント下方修正。試算には消費減税は織り込んでいない。原油価格の想定を前回の1バレル=68.0ドルから92.5ドルに引き上げた。世界経済の成長率も2.8%から2.7%に見直した。

◆世界のM&A過去最高450兆円 1～6月5割増、AI主導権争い電力に波及

・世界のM&A(合併・買収)が1～6月、5年ぶりに過去最高に。買収額の合計は2兆8473億ドル(約450兆円)と前年同期より50%増えた。人工知能(AI)の開発競争が激しくなり、米テクノロジー大手で買収が相次ぐ。電力などAIの関連産業の再編も進む。M&Aの大型化が目立つ。1件当たりの買収額は1億1582万ドルと64%増えた。5年前より4割大きい。

◆カスハラ相談せず42%、企業の対策不足も浮き彫りにーヴァンガードスミス

・トラブル解決支援サービスを提供するヴァンガードスミスはこのほど、18～59歳の働く男女500人を対象に実施した「カスターマーハラスメント(カスハラ)」に関する実態調査の結果を発表。カスハラ被害を受けた、または遭遇したことがある従業員のうち、42.2%が「会社や周囲に相談しなかった」と回答。相談しても状況は改善しないと感じている従業員は少なくない。

《 業界ニュース 》

～ 日経ニュース・日刊工業新聞・新建ハウジングなどを中心に抜粋 ～

◆タカスタンダード最終減益に 27年3月期、中東情勢で住宅工事遅れ

・タカスタンダードは2027年3月期の連結純利益が前期比5%減の143億円になる見通しだと発表。2%増の154億円とした従来予想から下振れし、一転して最終減益となる。中東情勢の影響で資材価格の高騰や住宅建設の遅れが響く。売上高も2600億円から2590億円に、営業利益も208億円から191億円にそれぞれ下方修正した。

◆業務用エアコン「スイッチレス」に ダイキン、運用改善で売り方変革

・ダイキン工業が業務用エアコンで「スイッチレス」の提案を始めた。自動で運転方法を変えて消費電力を減らす。エアコンを売って終わりにせず、運用改善にも乗り出して収益率を高めるための「先遣隊」と位置付ける新組織が始動。「スイッチレス空調システム」はビル用マルチエアコン向け。リモコンやスイッチで操作することなく自動で空調を運転させる。

◆国産ナフサが最高値更新、4～6月の価格確定 中東危機で2倍に

・石油化学製品の基礎原料となる国産ナフサ(粗製ガソリン)価格が4年ぶりに最高値を更新。30日に決まった4～6月期の価格は1～3月期の約2倍。中東危機による原油高の影響の大きさは、国産ナフサが初めて1キロリットル10万円を超えるかたちで示された。ナフサは原油から精製され、ポリエチレンなどの合成樹脂(プラスチック)などになる。

《 注目商品 》

■LIXIL、ビル建材において光輝アルミ技術「テクスライト」を活用した新色

・高意匠な質感が求められるビル建材において、未来の街並みを見据えた景観・空間価値の向上を追求し、独自の光輝アルミ技術「テクスライト」を活用した新色を含む、最新の建築トレンドを反映した全16色のカラーラインアップに刷新。



■シャープ、水なし自動調理鍋「ヘルシオ ホットクック」

・ホットクックとして初めて生成AIサービス「クックトーク」に対応。使いかたや献立相談など、調理の悩みにお応え。食材を自動でかき混ぜられる「まぜ技ユニット」を搭載したホットクックのハイエンドモデル“proシリーズ”の新製品。



■永大産業、薄型リフォーム用上貼りフロア

・既設の床に上から貼るだけで施工できる薄型リフォーム用上貼りフロア。工期短縮や施工時の騒音・粉塵を抑制し、廃材削減とコスト低減を可能にした。厚さが1.8mmと薄型のため、サッシ枠との段差や建具下部などの干渉を抑え、納まりの良い仕上がりを実現。

